

ふるさと沼田のよさに気づき、自らかかわろうとする児童・生徒の育成
～ 地域教材を生かした学習を通して ～

研究の概要

この研究は「沼田大好き！ふるさと学習」に基づいて、ふるさと沼田のよさに気づき、自らふるさとにかかわろうとする児童・生徒の育成を目指すものである。生活科、社会科、道徳等で「地域のひと・もの・こと」を地域教材として活用することで、身近な自然や人とふれあい、児童・生徒の郷土への理解を深めるとともに、ふるさとのひと・もの・ことに積極的にかかわり交流しようとする力を育てるものである。

【キーワード】 ふるさとのよさに気付く児童・生徒 沼田大好き！ふるさと学習
地域教材の効果的な活用

I 主題設定の理由

現行の教育基本法や学校教育法では、伝統や文化に関する教育の充実が教育課題として取り上げられている。教育現場においては、我が国や郷土の伝統を受けとめ、そのよさを理解し、継承・発展させる教育の充実に向けて積極的に取り組んでいくことが求められている。子どもたちにとっても自分の生まれ育った郷土＝ふるさとは自己を形成する基盤となるものである。

一方、核家族化による家庭生活や地域社会の変化から、ふれあう活動の欠如や人間関係の希薄化が指摘されて久しい。自分と人や地域のつながりが感じられなければ、ふるさとのよさも理解できないし、ふるさとへの愛着や親近感も湧いてこないであろう。また、産業構造の変化や交通網の急速な整備発達による都市への人口集中(特に東京への一極集中)、それに伴う地方の人口流出と人口減少も大きな問題となっている。実際、子どもたちの休日の様子を見ても消費動向は前橋、高崎方面を向いており、沼田市中心的な商店街では消費者を呼び戻そうとする努力が続けられている。また、高校生の進路を見てもかなりの数の生徒が渋川、前橋、高崎の高校へ進学している。このような子どもたちを取り巻く状況は、自分とふるさととの距離を、ますます遠ざける原因となっていくとも思われる。

人間は古来から自分たちの住んでいる土地での生活をよりよくしようと、知恵と工夫で困難を克服してきた。古くは先人たちにおける用水の整備によって、新田開発、開墾、耕地の整理等が行われ、食料を確保・増産することができた。また、最近では東日本大震災をはじめとする災害からの復興があり、災害後もふるさとから離れず再生を果たそうと、努力する人たちの姿がたびたび報道されている。これらのことから、ふるさととは、困難な状況にあっても簡単には離れられない特別な場所でもあるといえる。沼田の子どもたちにとって自分たちが生まれ育った場所はかけがえのないふるさとである。先人たちが知恵と努力によって築き上げてきた、ふるさと沼田について調べ、そのよさに気付くことは、今後、国際社会で生きていく子どもたちにとって意義あることであろう。

沼田市では、教育委員会の重点政策の一つとして「沼田大好き！ふるさと学習」に取り組んでいる。これは、児童・生徒の郷土への興味・関心や郷土に対する理解、愛着を深めることを目的とし、地域の伝統と文化を尊重する教育である。また、2016年1月からNHK大河ドラマで「真田丸」の放映が始まった。本市の市街地の発展は、このドラマの主人公真田信繁(幸村)の兄である真田信之(幸)とその子、信吉・信政兄弟の城下町づくりに負うことが大きい。火災や開発等で失われている物も多いが、市内各地でそれらの時代の名残りを目にしたり、それらにまつわる逸話を聞いたりすることもできる。しかし、児童・生徒の意識について聞き取ると、「沼田や地域のことは好きだがよく知らない」「教えてもらわないと分からない」「どう伝えていいか分からない」という声から、先人の努力の上に今の生活が成り立っていることなどを、普段あまり意識したこともないと感じられる。

そこで、本研究ではそれらを受けて、低学年では学区にある「もの」と「ひと」について、中学年や中学校では先人たち(ひと)の活動や業績(こと)、歴史的遺産(もの)を知ることから始めていく。児童生徒の日常生活は、家と学校や目的地の往復など狭い範囲に限られており、移動も車によるものがほとんどである。その途中や日常生活の中に、歴史的なものがあっても改めて立ち止まって見ることは少ないだろう。それは、歴史的な価値を伝えてくれる地域の人とのつながりが薄れてしまったことも一因と思われる。しかし、先人たちが大切にしてきた歴史的なものを知れば、見方も変わり興味も湧いてくる。実際に見学したりそれらにまつわる話を聞いたりする、体験や見学を基に考えることを大切にすれば、沼田のよさに気付き特色を知ることができると思われる。そして、知ることができればどうかかわっていかうかと考え、次の行動へつながっていくであろう。『はばたく群馬の指導プラン』でも、目の前の「ひと・もの・こと」を学習対象(教材)とした子ども主体の追究活動を目指しているように、体験を通した学習は児童・生徒の頭に印象が強く残り、それが郷土への理解につながり、各自がふるさとに愛着をもった大人に成長していける。

以上のようなことから、身近な地域素材を教材化し、学習の中で活用していくことで、児童・生徒がふるさと沼田のよさに気付き、自らかかわれるようになるであろうと考え、本題材を設定した。

II 研究のねらい

地域には教育的価値の高い様々な素材があり、地域教材を扱える授業は多岐にわたる。それらを精選し、発達段階に応じて地域教材を生かした学習を繰り返し実践することによって、ふるさと沼田のよさに気付き、自らかかわろうとする児童・生徒を育てる。

III 研究の見通し(仮説)

身近な地域教材を各教科や道徳等で効果的に活用し、見学や体験を重視した授業づくりをすることにより、児童・生徒がふるさと沼田のよさに気付き、自らかかわれるようになるであろう。

IV 研究の内容と方法

1 研究の内容

(1) 基本的な考え方

①「ふるさと沼田のよさに付き、自らかかわろうとする児童・生徒」とは「自分の生まれ育った地域の自然・文化・伝統・行事や人とのふれあいなど、ふるさとのよさに気付き、郷土に主体的にかかわろうとする児童・生徒」ととらえる。具体的には「ふるさとのよさを学ぶ」「ふるさとの自然や人とふれあう」などである。発達段階における姿は次のとおりである。

○低学年・・・身近な人と交流するとともに、好きな場所がふえたり、進んで地域の行事に参加したりする児童。

○中学年・・・住んでいる地区から関連する地域へと視野を広げ、先人の行い・文化財・地域の行事を理解し、さらに進んで調べようとする児童。

○高学年・・・郷土に貢献した先人の努力や功績・文化財・地域行事の価値を理解し、説明できる児童。

○中学生・・・先人の業績・文化財や自然の価値・地域行事について説明し、発信できる生徒。

②「地域教材を効果的に学習に活用する」とは郷土についての学習は、教科や行事等で学ぶことが多い。教科や行事等における地域学習では、郷土の「ひと・もの・こと」について学び、見学したり交流したりしている。具体的には、沼田の特色や伝統・文化を知る、施設・史跡を見学する、文学者の作品にふれる、偉人の功績を知る、地域の人と交流する、地域の自然にふれることである。そして、学びを効果的に活用する具体的な方法として次の点を重視し、実践していくこととした。

○地域学習に生かせる教科、場面について計画し、考察しておく。

○事前アンケートから地域教材を活用した後の児童・生徒の変容をとらえる。

○真田氏や小松姫にかかわる視聴覚教材や講師を効果的に活用していく。地域教材を生かした学びを提供することにより、実感を伴った学習を展開する。そして、振り返りの場面（授業後や単元の終末）では、自分とふるさとのつながりを考え、学んだことを他教科に生かし発展させられるようにする。それには、地域素材を教材化する研究が必要である。

③「地域素材」とは郷土に存在する自然や歴史、文化、伝統に関わる地域の代表的な「ひと・もの・こと」であり、由来や逸話に教育的な価値を含み、教材として活用が可能と考えられるものである。また、本研究では学校における教科や行事等で、地域の学習に関係したものも地域素材に含むこととする。

今回の研究を始めるにあたり、以下の地域素材が挙げられた。なお、□は検証したものである。

ひと もの	先人・著名人 地域の人	沼田顕泰とその一族 □ 小松姫と真田信之その子信吉 □ 塩原太助 □ 久米民之助 □ 小野忠孝 □ 林柳波 □ 星野あい □ 生方たつゑ □ 宮川ひろ 池波正太郎 □
	文化財と施設な ど	荘田城 □ 小沢城 □ 幕岩城 □ 沼田城 □ 鐘楼 □ 沼田公園 □ 天桂寺 □ 正覚寺 □ 旧生方家住宅 □ 旧土岐邸洋館 □ 榛名神社 □ 須賀神社 □ 八幡宮 □ 三光院 □ 城堀川(川場用水、白沢用水) □ 用水管理のための宿割(高平宿) □ 上久屋神社 □ 諏訪神社 □ 薄根の大桑 □ 一本松 □ 玉原湿原 □ 利根川 □
	自然	赤城山 □ 子持山 □ 吹割の滝 □ 老神温泉 □ 片品川 □ 薄根川 □ うつぶしの森 □ 河岸段丘 □
	作品	「おうま」「うみ」「スキーの歌」 □ 沼田小校歌 □ 升形小校歌 □ 「真田太平記」 □ 「まぼろしの城」 □ 沼田切り絵かるた □
こと	祭り・行事	沼田祭り □ えびす講 □ どんど焼き □ 薄根太々楽 □ 沼須人形芝居 □

④沼田市教育委員会の重点指導施策である「沼田大好き！ふるさと学習」

ア 直接指導 「道徳の時間」において「郷土の伝統と文化を大切にし、郷土を愛する心をもった児童・生徒を育てること」を直接的なねらいとして、「沼田に関する資料」等を活用した指導。

イ 間接指導 「各教科」「総合的な学習の時間」「特別活動」において、それぞれの教科等のねらいの達成に向けて、沼田に関する「ひと・もの・こと」を教材として取り上げた指導。直接的なねらいは各教科等のねらいであるが、教材として沼田のことを扱うことによって間接的に「沼田を愛する心」を育成することを目指している。

ウ 日常的指導 「授業以外の時間において」沼田市三大文学賞への参加 地域行事への参加沼田の歌地域ボランティアの活用 地域素材を生かした給食の献立等

～ アとイは平成25年度小学校班の紀要より ～

(2) 研究の全体構想

目指す児童・生徒像

『ふるさと沼田のよさに気付き、自らかかわろうとする児童・生徒』

低学年

身近な人と交流するとともに、好きな場所が増えたり、進んで地域の行事に参加したりする児童。

中学年

住んでいる地区から沼田市全体に視野を広げ、先人の行い・文化財・地域の行事を理解し、さらに進んで調べようとする児童。

高学年

郷土に貢献した先人の努力や功績・文化財・地域行事の価値を理解し、説明できる児童。

中学校

先人の業績・文化財や自然の価値・地域行事について説明し、発信できる生徒。

直接指導

発信する

間接指導

道徳

特別活動

かかわる

総合的な学習の時間

日常的な指導

授業以外の時間

気付く

各教科

地域素材の活用

(ひと、もの、こと)

〈児童・生徒の実態〉

- ・沼田や地域のことは好きだが、よく知らない。
- ・見学や体験、発信などの学習活動は興味があるが、わかりやすくまとめることは苦手である。
- ・小学校では自らかかわることは苦手としている児童がみられる。
- ・中学校では学校行事としてのかかわりはあるが、時間的な制約があり、自らかかわる場面は少ない。

2 研究の方法

(1) 実践計画

4・5月	児童・生徒の意識把握(実態把握) — 課題の明確化 先行事例の研究 研究主題・研究内容の検討・実態調査
6月	主題検討会(6月16日)—研究の方向確認・修正 文献研究 地域素材収集 フィールドワーク
7月	実践計画検討
8月	第一次検討会準備 地域素材収集
9月	第一次検討会(9月15日) 地域素材の教材化 実践準備、指導案検討
10月・11月	指導案検討・実践 沼田南中学校(10月27日) 沼田東小学校(11月10日) 利南東小学校(11月17日)
12月	事後調査 成果と課題について検討
1月	第二次検討会準備 第二次検討会(1月26日)
2月	紀要原稿作成・提出 修了式・成果発表会(2月26日)

(2) 検証計画

検証の観点	検証の方法
身近な地域教材を各教科や道徳等で効果的に活用し、見学や体験を重視した授業づくりをすることにより、児童・生徒がふるさと沼田のよさに気づき、自らかかわれるようになるであろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート ・観察 ・作文 ノート ワークシート 生活日記

V 実践の展開

実践事例1（沼田市立利南東小学校2年）

1 単元名 となみ なかよし 大きくせん II

（小単元「まちたんけんの計画をたてよう」「まちの人に会いに行こう」
「なかよくなった人のことをしょうかいしよう」）

2 本研究における実践の位置付け

生活科の時間において、自分たちの住む地域（利南地区）の「ひと・もの・こと」に着目し、繰り返しかかわる活動をまとめたり、紹介したりする活動をとおして、沼田のよさに気づき、自ら関わることのできる学習を設定する。

「となみなかよし大きくせん」では、学習指導要領の「自分と身近な人々及び地域の様々な場所、公共物などのかかわりに関心を持ち、地域のよさに気づき、愛着をもつことができるようにするとともに、集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え、安全で適切な行動ができるようにする」ことをねらいとしている。そこで本実践では、「ひと」「もの」「こと」を意識した体験やかかわりを重視した学習を通して、お気に入りの場所が増えたり、進んで地域の人や行事とかかわったりする子どもの育成を目指す。

「となみなかよし大きくせんI」では、学区内の自分の通学路ではない道を歩くこと、神社や郵便局など学校から近い場所にある施設を知るといった体験学習を行う。初めての校外でのかかわりであるため、道の歩き方やインタビューの仕方などのマナーを、質問を考えたりまとめたりする町探検の過程を学習する。また、目的地にかかわらずいろいろなものに目を向けさせることで、今後のかかわり方にも広い視野をもたせることができると考える。

「となみなかよし大きくせんII」では、1学期に町探検の学習をした子どもたちが、さらに場所や人々、そしてかかわり方などの学習対象を広げていく。利南地区には、沼田の人々が集まる飲食店、りんご園やとんかつ街道など観光客が立ち寄る店が多い。これらの存在について知り、調べたり体験したりしながらそのよさに気付くことは、子どもたちが自分と地域を身近なものとして感じ、自らかかわりたいという気持ちを育むことができるのではないかと考える。

「となみなかよし大きくせんIII」では、2回の町探検を通じて気付いたことを伝える学習を行う。友だちや地域の身近な人々と伝え合う活動を行い、その中で身近な人々とかかわることの楽しさが分かるとともに、進んでかかわることができるようにしたい。

3 本研究に関する児童の実態

この時期の子どもたちは、家の周りや通学途中の環境、友だち等とかかわりをとおして、自分たちの地域へと行動範囲を広げ、生活空間も広がり、少しずつ自分たちが住んでいる町の様子に関心をもつようになってくる。地域の人や自然、社会のすべてが子どもたちにかかわる対象となっていて、子どもたちが知ったり覚えたりすることも益々増えてきている。しかし、これらの多くのかかわりについて、子どもたちは意識的に振り返ったり、友だちと情報交換したりすることが少ない。

子どもたちは2年生になってから、ほたるの里（上久屋町）を探検し、約束を守りながら友だちといろいろな春を見つけることができた。だから、今回の町探検を楽しみにしている様子が伺える。

学校や家の周りの好きなところを聞いたところ、「時計台（遊び場）」や「公園」、「プール」をあげた児童が8名、「セガワールド」や「ベイシア」などのお店と答えた児童が6名、「ひみつきち」や「となりのいえ」、「おばあちゃんち」など身近な場所をあげた児童が5名、無回答が3名であった。それぞれが身近なところやよく利用している場所をあげたが、それがどこにあるか、どんな場所かは理解していない様子が見られた。また、考えつかずに悩む児童も多く見られたので、町探検を通して町の「もの」や「ひと」にかかわることで、お気に入りの場所としていくつかの場所をあげられるようにしていきたい。

これまでも校外学習の経験はあり、そこでは楽しかったという思いや自然についての気付きはもっている。しかし、自分たちの生活とのかかわりやそこに住む人々について考えたこと経験は少ない。

そこで、様々な「もの」や「ひと」に出会ったり、その中で発見したりという体験を通して、それらが自分の生活とかかわっていることに気付き、地域に親しみや愛着をもてるようにしていきたい。

4 目標

地域で生活したり働いたりしている人々と、話したり、一緒に活動したりするなどして、地域のよさに気付き、地域の人や場所への愛着を深めるとともに、人々と適切に接したり、地域で安全に楽しく生活したりすることができる。

5 実践計画（全12時間 本時は第12時）

『となみ なかよし 大きくせんⅠ』（5～6月）				
学習活動（支援）				
<ul style="list-style-type: none"> ・学区の中にある、気に入っている物を一人ずつ紹介し、地図に掲示した。 ・行ってみたいところ、知りたいことを考えた。 ・探検先への質問、見てみたいことを考えた。（「もの」「ひと」「こと」に色分けしたカードを使用。） ・地域の神社（上久屋神社・諏訪神社）、郵便局、ヤマザキショップを探検した。 ・探検後、探検で気づいたことをカードにまとめ、発表した。 <p>（探検したグループ内で書くことを相談し、色々なことをみんなに伝えられるようにした。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色分けした付箋に探検して知った「もの」やこと、仲良くなった「ひと」、について書き、地図に貼りまとめた。（行く途中の道にあるものや、そこで気付いたことなども書くようにした） 				
『となみ なかよし 大きくせんⅠ』（11～12月）				
経過	時間	学習活動	支援及び留意点	地域素材
つかむ	1	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期のまち探検を振り返り、もっと利南となかよくするために行きたい場所、話したい人、聞きたいことなどを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図を掲示して考えることで、知りたいという意欲を高めるようにする。 ・探検する場を伝え、範囲を絞ることで、具体的に考えられるようにする。 ・「もの・ひと・こと」まで興味を広げて考えられるように色別の付箋を使う。 ・意見を広げるために、グループで相談したり、学級で相談したりする場を設ける。 	学区の地図
活動する	1	<ul style="list-style-type: none"> ・探検の計画を立てる。（なかよし計画） ・あいさつ練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校探検や下校時の約束や春の町たんけんでき付いたことを想起させ、ルールやマナーを考えさせる。 ・特に危険だと思われる場所は事前に話をしたり、地図に書き込ませたりするようにする。 ・仲良くなるために何をしたらよいか、相談し合い、児童がかかわり方を工夫できるようにする。 ・みんなで考えた質問の用紙を見ながら、グループ毎に質問を考えさせるようにする。 ・質問の仕方は練習し、マナーを守って探検ができるようにする。 	地域のお店 （ファミリーマート） （ふじや） （くすりのわかばやし） （デイサービス） （ココス） （えぞいち）
		<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに、計画に沿って探検に行く。 ・探検した場所で、気付 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の方にも協力していただき、安全に行けるようにする。 ・仕事のことだけではなく、自分たちの生活とのつながりも考えられるような言葉がけをする。 	お店、施設で働く人

	3	たことを「町たんけんカード」にまとめる	<ul style="list-style-type: none"> ・お店や施設の人と積極的に話ができるように、声をかける。 ・事前にお店や施設の方にも、ねらいを伝え、関わる時間を設けられるようにする。
つなげる・深める	1	<ul style="list-style-type: none"> ・行った場所やなかよくなった人のことを振り返り、気付いたことや町の人の思いをカードに付け加える。 (探検のグループ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉や文字で表現することが困難な児童には、探検時の写真を見せたり質問をしたりして、そのときの思いを言葉にできるようにする。 ・友だちとの気付いたことの交流により、改めて気付いたり、思い出したりしたことは、自分のカードにも付け加えて、カードをまとめるように声をかける。 ・見てきたことや聞いてきたことだけではなく、感想を入れてまとめられるようにカードを工夫する。
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちに伝えたいことを相談し、伝える準備を行う。 (探検のグループ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が参加して書けるように、伝えたい内容を分担して書くように指示する。 ・他のグループの友だちにわかりやすくなるように工夫することを意識させるようにする。 ・グループ内で交流し合い、気付いたことを付け加えるように指示をする。
まとめる・本広げ	2	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに探検してわかったことを発表する。 ・友だちの発表を聞き、わかったことを書き、発表する。 ・もっとなかよくなるための方法を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに聞き役、発表役となり交互に発表できるようにする。 ・児童が発表した言葉を繰り返すなどして、地域や地域の人のよさを位置付けるようにする。 ・「となみのすてきカード」にまとめ、一学期の町探検と比べさせて、地域の人と関わりが深まったことを称賛する。 ・もっともつなかよくなるための方法を考えさせ、自らかかわろうとする思いを抱く児童を称賛する。

となみなかよし大きくせんⅢ（3月）

学習活動

- 町探検で知った“となみのすてき”を教えたい人、教える方法を考える。
- 『となみかるた』を作る。
- 発表する。（町でなかよくなった人、保護者、1年生に向けて行う。）

6 実践経過

(1) つかむ過程

・「もっとなかよくなるためにはどうしたらよいか」と児童に投げかけた。その結果、児童から「たくさん話をする」「質問、見学をする」「学校のことを教える」という3つの考えが挙がった（図1）。この3つを作戰として、町探検の計画を立てる際に活用した。

・店や施設といった場所の指定をせずに全員で質問づくりを行い、全員がいろいろな店や施設へ関心を向けられるようにした。（図2）

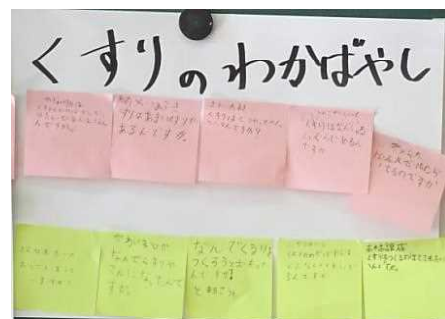
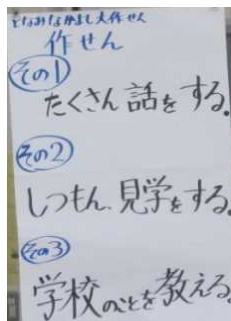


図1 なかよし作戰

図2 質問カード

(2) 活動する過程

・児童が希望する探検場所を基本としてグループ分けを行った。少人数のグループのため、それぞれが役割をもって、活動することができた。

・図2の質問カードを見ながら各グループで改めて質問を考えることで、多種多様な質問を考えることができた。またみんなの代表である意識をもって活動できた。

- ・グループ毎に「学校のことで教えたこと」を決めた。班によっては校歌を教えようと練習したり、学校で飼っているうさぎについて教えたいと画用紙に絵を描いて準備をしたりした。探検先で挨拶をした後に、紹介させていただき、プレゼントとして渡した。(お店に飾ってもらっているところもある。)
- ・町探検では、保護者の方々に協力をお願いした。趣旨をよく説明して、子どもと店や施設の人がたくさん関わりをもてるような手助けをしていただけるようお願いした。

(3) つなげる・深める過程

探検カードをもとに、グループで相談し伝えることを決めた。誰が何について書くのか分担して、カードにまとめた。

各々、「なかよくなったこと」「探検をしての感想」をハートのカードに書き、後から付け加えて貼るようにした。(図3)

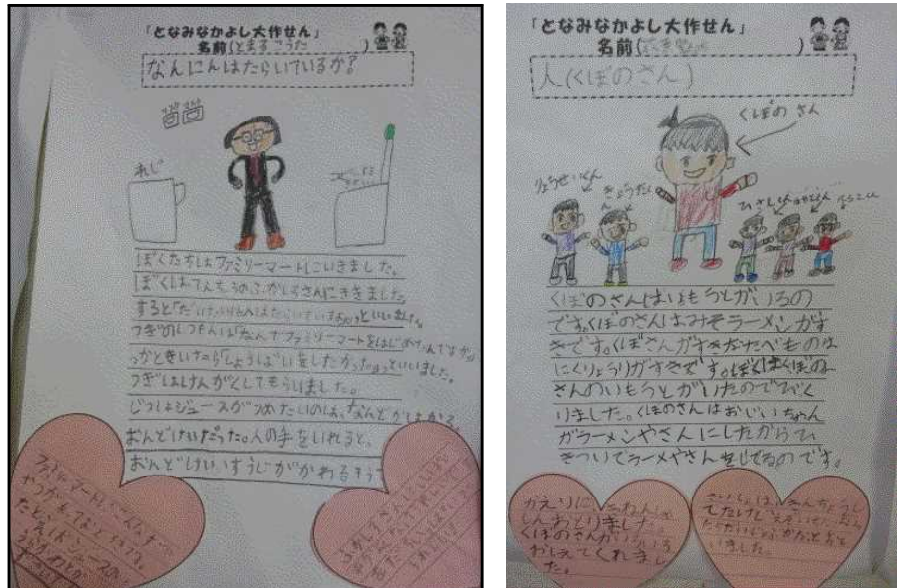


図3 伝えたいことをまとめたカードとハートのカード

(4) まとめる・広げる過程

・発表は、ジグゾー学習(グループ毎)で交代しながら行った(図4)。同じ発表を何回も繰り返したことで聞き方に慣れ、より具体的な質問をし合っている姿が見られた。(図5)。また、少人数同士で発表を行うことも、質問を活発にしたり、より深く知り合うことにつながったりした。



図4 発表の様子



図5 発表後、質問をする様子

- ・自分が探検に行っていない場所のことを知ったり、単元を通じた成果を実感させたりするため、『となみのすてき』カード(図6)に自分が探検してわかった利南地区のよさや友だちから聞いてわかった利南のよさを書いた。ここでは発表したカードや今までの学習で使ってきたものを教室に掲示し、自由に立ち歩き、見て回れるようにした。
- ・「となみなかよし大作せんⅠ」と同じカードを使って、そのカードに積み重ねたことで、増やせたという実感をもてるようにした。
- ・「となみのすてき」を全体で発表した後、探検したお店や施設の方のコメントを画用紙に書いたものを掲示した。これによって、またかかわりたいという気持ちをもたせ、「となみなかよし大きくせんⅢ」でのかかわり方について考えさせる糸口とした。

7 本時の学習




(1)ねらい


となみのよさに気付き、友だちと伝え合うことができる。

(2)準備 教師…学区の地図、ワークシート

児童…筆記用具、“となみのすてき”カード

(3) 展開

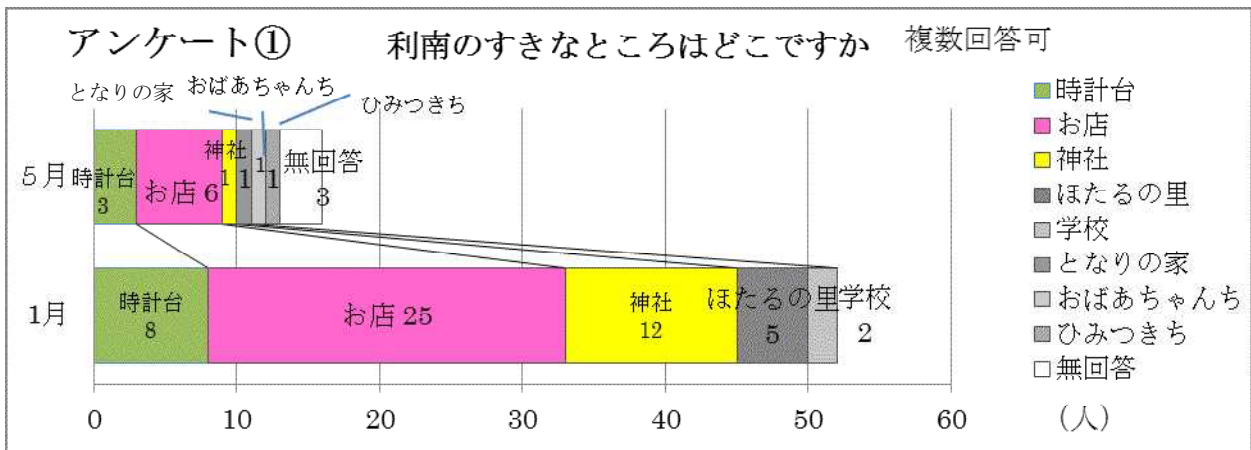
過程	学習活動	時間	支援及び指導上の留意点	学習の様子
つかむ	○本時のめあてを知る。	8	・前時までの学習内容を振り返り、本時のめあてを確認する。	
解決する	○自分が探検したことや、友だちが発表したことの中から、“となみのすてき”を見つけて書く。	10	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの発表や自分の探検を振り返ることができるような掲示物を用意する。 	
	○グループで意見を交流する。	7	<ul style="list-style-type: none"> ・一学期のワークシートも手元に置き、比べて書けるようにする。 ・「もの」だけに偏らず書けるように、声をかける。 ・書けた児童には赤白帽子を赤でかぶるように促し、教師が支援しやすいようにする。 ・書けない児童には、写真や探検カードを振り返るように伝える。 	
	○全体で発表する。	8	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が積極的に参加できるように、3人グループで行う。 ・交流が終わったグループは赤白帽子を白にするように促し、教師が支援しやすいようにする。 ・交流の仕方を提示し、スムーズに進められるようにする。 ・友だちの発表を聞いて、自分のカードに付け加えて書いてもよいことを伝える。 	
			<ul style="list-style-type: none"> ・一人が一つのことをを発表するよう数を制限し、多くの児童が発言できるようにする。 ・児童が発表した「もの」や「人」をシールで、探検場所ごとのカードに貼り、成果を見やすいようにする。 ・発表内容を地図や写真などで確認できるように、 	<p>たんけんに行ったり、発表を聞いたりして“となみのすてき”は見つけられたかな</p> <p>ほくもそう思ったよ</p>

		黒板に地図を掲示しておく。 ・友だちの発表を聞いて、自分のカードに付け加えて書いてもよいことを伝える。	
ま と め る	○「となみなかよし大きくせんⅡ」を振り返る。	12 ・作戦（学校のことを教える）が上手くいったことをお店の方からのコメントなどで確かめる。  ・「となみなかよし大きくせんⅠ」の時のワークシートと比較させる。 ・今回の成果をどのように生かすか、考えさせる。 （次時の学習につなげる）	手紙をもらうなんて、うれしいな。また行きたいな。 自慢したい！ おうちの人とまた行きたいな。

8 実践のまとめ

(1) よさの気付き

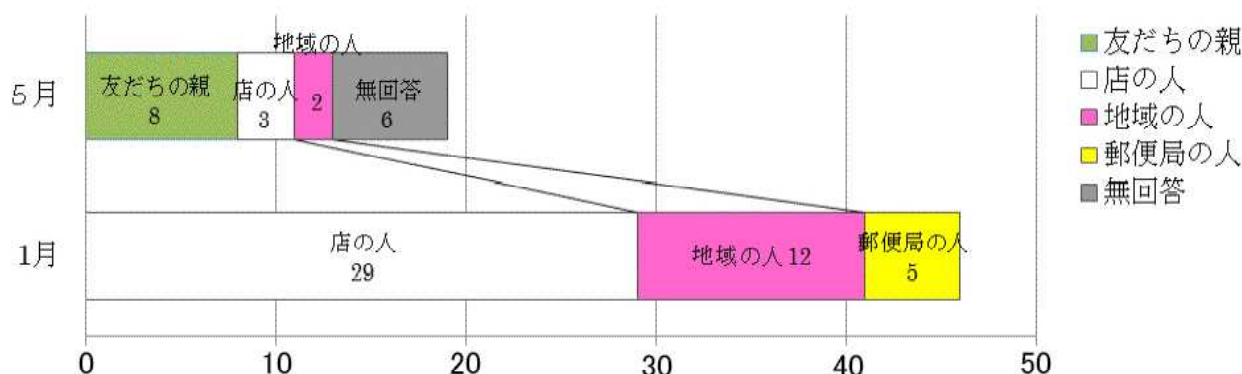
地域学習の視点としてきた、「もの」「ひと」「こと」を重視し、地域とかかわる学びを行った結果、アンケートから「もの」に対する好きなところは、格段に増えており、いろいろな場所を知ったことがわかる。また、今まで知っていたところも改めて好きとして認識できたこともわかった。(アンケート①)



「ひと」について知っている、話したことがある人が増えていることがアンケートからわかる。また無回答の児童はいなくなった。(アンケート②)

これらアンケートは町探検の直後ではなく、7か月後（となみなかよし大きくせんⅠ）、3か月後（となみなかよし大きくせんⅡ）にとった結果であるため、児童に深く定着していると言える。

アンケート② 利南の人で知っている人はいますか 複数回答可



(2) 関わり

「となみのことでもっと知りたい『もの』、なかよくなりたいたい『ひと』、さんかしたい『こと』がありますか」という質問では、5月のアンケートでは「～に行ってみたい」という意見を数人の児童が回答したのみであった。しかし、1月のアンケートではほとんどの児童が意見を書くことができ、「～のお店のとなかよくなりたいたい」「神社のおまつりや行じに行ってみたい」といった具体的なものをたくさん挙げられようになった。

「自分のすんでいるところが好きですか」という質問では、5月には「いいえ」と回答した児童が7名おり、「はい」と答えても理由を挙げられない児童がほとんどであったが、1月には、「いいえ」は1名に減り、「**お店がある**」「**町の人やさしい**」「**神社のおまつりや行事が楽しい**」といった好きな理由を全員が書くことができた。

9 成果と課題

(1) 成果

○目指す児童像を意識し、年間を通した単元構想を行ったことや他教科、行事などにおける地域とのかかわりを計画的に行ったことで、児童に繰り返し地域とのかかわる場をたくさん提供できるようになり、児童自身に興味や関心を高めることができた。

○町探検を二度行い、繰り返し活動したことで、児童がかかわり方を理解し、自らかかわりたいことや場所、かかわり方を考えることができた。

○『となみなかよし大きくせん』という単元名を掲げ、「ひと」と仲良くなることを重視し、名前を覚えたり、好きなもの聞いたりしてコミュニケーションをとったことや、学校のことを教えるといった能動的なコミュニケーションを取り入れたことで、地域の「ひと」はもちろん、「もの」にも関心をもち、多くのことを子どもが実感をともなった知識として学習することができた。

(2) 課題

○町探検の場所は複数であったため、すべての場所に教員がついて行くことができず、探検場所での個に対する支援に差があった。事前にかかわり方について細かいシミュレーションを行うなどの指導を大切にすると考える。

○「楽しい」という感想で終わってしまう児童もおり、「楽しい」から「すごい」「すてき」そして「大切にしていきたい」という気付きをもたせるためには、各学年で繰り返しかかわっていくことが大切だと考える。

○この学習では同じ「もの」や「ひと」に繰り返しかかわることがより効果的であると考えられるが、地域の特性（上段と下段に別れており、一度に探検に行くのが難しい）や授業時数などにより、繰り返しかかわることができなかった。生活科の年間指導計画や町探検の計画を見直し、ボランティアやお店・施設の方々の理解や協力を仰いでいく必要がある。

実践事例 2 (沼田市立沼田東小学校 4 年)

- 1 単元名 「郷土を開く」 白沢用水・川場用水～城堀川 (滝坂川)
- 2 本研究における実践の位置付け

白沢用水・川場用水～城堀川(滝坂川)について

白沢用水は享禄年間(1530年代～)、沼田倉内城築城の際、領主沼田顕泰の命により着工、完成までに2年余。市街地の東、12キロにある白沢町高平の白沢川松ヶ久保から引水、市街地で城堀川と名称が変わる。真田氏の時代に入り、初代真田信之(幸村の兄)の慶長6年(1601年)に改修の記録がある。

川場用水は真田氏2代目信吉の時代、元和6年(1620年)に着工、8年間を経て寛永5年(1628年)に完成している。川場村湯原の東、黒岩の薄根川から引水、トンネル1ヵ所を通り、木樋で6箇所を越え横塚の集落、今の沼田東中学校の東で白沢用水と合流し城堀川となる。川場村水源地の標高が500m、城下の水路(材木町分岐点)の標高が410m、落差は90mである。これは、水源からの距離が約15kmあるため平均の勾配144分の1、つまり144分の1の用水に対して落差が1mということになり、ほぼ水平に近い状態で開削されていることが分かる。

この城堀川の水は大正時代、沼田市街地に水道が引かれるまで、上水道として利用された。なお、滝坂川の名称は近代のものである。

主に『みやま文庫 真田氏と上州』『沼田の歴史と文化財』の記述による。

城堀川を完成させた真田信吉は信之・小松姫夫妻の嫡男で、天桂寺に墓所があり、沼田市に眠るただ一人の近世大名である。

大正年間、沼田市街地に水道が引かれた(水源は片品川)後、城堀川は都市化とともにその機能を失い、汚水が流れゴミが捨てられていた時代もあった。しかし、これを憂いた人々によって整備され、現在は川沿いに桜が植えられて市民の憩いの場となっている所もある一方、関越沼田インターの開設や道路の拡幅により、かつて整備された桜並木の多くは失われている。

児童は『すみよいくらし』で生活にかかせない上水道、下水道について学習している。江戸時代の用水というと、新田開発のための用水開削が取り上げられることが多い。もちろん、本教材で扱う用水も水田に利用されていた(白沢町や栄町方面)が、本来の目的は城下町発展のためであり、城下に住む人々の上水道または、生活用水として使用されていたという面を押さえていきたい。さらに、学習の一端として沼田一族の内紛を含め、真田信吉とその父母、信之・小松姫など真田氏を取り上げることで沼田と真田氏の関係にもふれていきたい。

- 3 本研究に関する児童の実態(男子11名、女子12名 計23名)

沼田について5月末にアンケートを実施したところ、19名の児童は「沼田が好き」と答えている。その理由としては「生まれ育った所だから」「知り合いがいるから」ということであり、具体的なものは出てこなかった。そして「沼田のよさ、自慢できることは?」と聞いたところ「自然 沼田公園

沼田祭り みそ饅頭 りんご こんにやく 尾瀬に近い」などの回答もあったが、書けない児童が7名いた。「沼田出身または沼田に関わったの著(有)名人を知っていますか」については「小松姫 林柳波 小野 忠孝 真田(一族)」等が挙げられた。これは、小松姫のゆるキャラとふれ合った経験、沼田市三大文学賞に応募した経緯、真田(一族)については読書やゲームに登場する関係から挙げられている。また、今後の学習をするにあたり「沼田のことを今よりも知りたいですか」と聞いたところ「知りたい」と20人が答えており「沼田のよい所(自慢できること)をもっとさがしたい」「どん

な人がいたか調べたい、その人がどんなことをしたか調べたい」「沼田カルタをやってみたい」とのことであった。アンケート後の話合いで、「迦葉山 玉原高原 吹割の滝など知っている、行ったことがある」と答えた児童は複数いたが、それが自慢できるものかどうか分からないということであった。

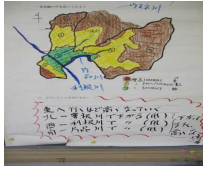
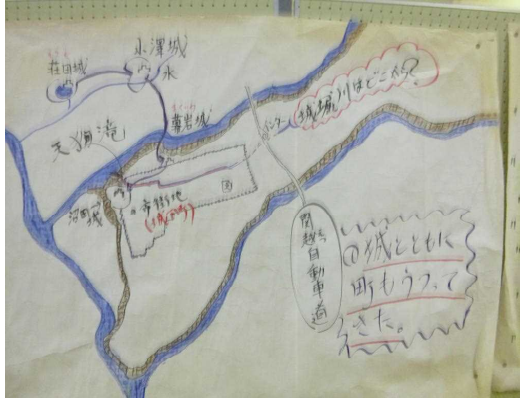
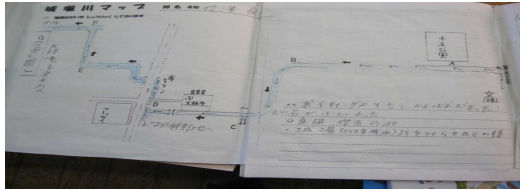
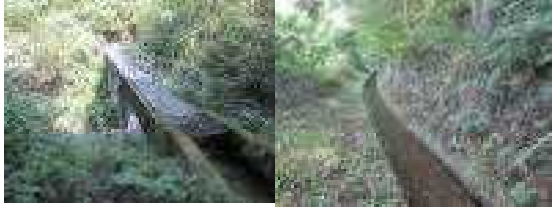
城堀川についてあげると、社会科の単元「くらしを守る」で学区の地図を見たときには、城堀川は単なる川であり、落ちると危ないとの理解であった。本単元を学習するにあたっての事前アンケートでは、城堀川という言葉聞いたことがあると答えている児童は13名であるが、学校の間近を流れている川であるにも関わらず、7名は「見たことがない」と答えている。また、2名の児童が十王公園～旧中央病院～天桂寺の辺まで流れていると答え、釣りや川遊びをしたことがあると答えた児童が2名いた。かつてここを流れていた水が旧沼田町民の飲料水などの生活用水として利用されていたこと、沼田城の堀の一部に流れ込んでいたこと、また、水田に引かれていたなど、その歴史や役割について知っている児童はいないが、城堀川について「見学したい」「詳しく調べてみたい」「どこから流れてきてどこへ流れていくか知りたい」「まとめて発表したい」などの意見が出された。また、歴史の学習に興味や関心をもち、断片的ではあるが、徳川家康、豊臣秀吉と真田氏の関係や小松姫のエピソード、沼田の戦国時代の戦略的な位置について知っている児童がいる。





4 目 標

地域の開発に尽くした先人の働きに関心をもち、現地を見学したり資料を調べたりして、白沢用水、川場用水～城堀川（滝坂川）を開発した先人の働きや苦心を考えるとともに、この用水が沼田市街地の発展にどれだけ寄与してきたかについて分かるようにする。

5 実践計画（全15時間予定 本時は13時間目）

過程	時間	主な学習活動	支援及び留意点	地域素材及び学習資料
つかむ	1時	・地域の中で、今も残り伝わる史跡など、歴史を伝えるものを探し、かかわりの深い人物と結び付けながら関心をもつ。	・歴史を伝えるものについてかかわりのある人物と結び付けたり、生活の中から思い浮かべたりする。	資料 沼田市史 上毛・きりえ沼田カルタ (塩原太助、茂左右衛門、小松姫・城堀川、沼田平八郎など)
し	2	・資料約500年前の沼田台地の様子の絵地図と今の沼田市街地の航空写真を比べ、なぜ台地の上に人が住めるようになったか気づき、その要因を調べるための学習計画を立てる。 ?平地なのになぜ人がいない ?人が住むのに何がない ?城堀川は誰がつくったの ?どこからどこへ流れるの	・沼田台地には水がなく昔の技術では薄根川や片品川から水を引くことができなかったことに気付かせる。 ・城堀川の写真を見せ、この川のおかげで台地に人が住めるようになったことを押さえ、城堀川について調べる学習計画を立てていく。	自作提示資料 約500年前の絵地図  城堀川 

べ	ら	3	<ul style="list-style-type: none"> 沼田市の航空写真から、現在の土地の様子を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 航空写真の読み取りで利根川、薄根川、片品川、沼田台地の様子について話し合わせる。 	<p>地勢図</p>  <p>資料 副読本の航空写真</p>	
		4	<ul style="list-style-type: none"> 地図から白沢・川場～城堀川を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地図から用水づくりの工夫を見つけさせる。 	<p>自作提示資料 城堀川と城下町</p> 	
		5	<ul style="list-style-type: none"> 等高線の見方 土地の高低 川との位置関係 用水の位置 用水の長さ さらに調べたいこと、聞きたいこと、確かめたいことをまとめ次時に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 地図から分かる情報を着色させることで明確にさせる。 疑問や聞きたいことをまとめ、見学への意欲をもたせる。 		
る		6	<ul style="list-style-type: none"> フィールドワークで城堀川噴水公園から天狗滝までたどり、 	<ul style="list-style-type: none"> 見学の目的意識をしっかりと持ち、主体的に活動させる。 	<p>見学・観察シート</p> 	
		7	<ul style="list-style-type: none"> 分かったことをワークシートにまとめておく。 			
川場村の水源地と水樋(水道)の見学、観察を10月6日の玉原高原遠足の時に実施。						
ま	と	め	9	<ul style="list-style-type: none"> 今までの学習を振り返りワークシートや絵地図にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> フィールドワークで分かったことを整理させる。 写真を絵地図に貼り、沼田の地形と用水の流れを確認させる。 	<p>水源付近 (川場村)</p> <p>水道橋</p> <p>用水</p> 
			10	<ul style="list-style-type: none"> 白沢・川場～城堀川の歴史について調べる計画を立てる。 ? いったれがどのようにして造ったのか ? 人々の願い ? どんな道具を使ったのか 	<ul style="list-style-type: none"> フィールドワークを通して分かったこと、疑問に思ったこと、もっと調べてみたいことについて話し合い、学習計画を立てる。 	
し		11	<ul style="list-style-type: none"> 白沢、川場～城堀川の歴史について調べる。 「まんが沼田の歴史」と視聴覚資料で沼田城と沼田一族、真田氏の城下町づくり小松姫のエピソード 	<ul style="list-style-type: none"> 資料を読み合い、前時の問題が解決できそうな部分に印をつけながら、ワークシートにまとめさせる。 	<p>資料</p> <ul style="list-style-type: none"> 『まんが沼田の歴史』 沼田市の内紛と沼田公園の平八石 真田氏の沼田侵攻 沼田城と城下町建設 <p>視聴覚資料</p> <ul style="list-style-type: none"> 『NHKほっとぐんま640』 『真田太平記～小松姫～』 	

ら	12	を読んだり視聴したりし整理する。		
べ	13	<p>・川場～城堀川の工事はどのように行われたのだろうか。</p> <p>?道具は</p> <p>?用水の勾配は</p> <p>?どうやって測量したのか</p>	<p>・教科書の掲示用資料から当時の道具を確認させる。</p> <p>・勾配や測量の方法など、具体的な数値や体験を通して疑問や問題を解決させる。</p> <p>・測量の仕方を調べ、実際に灯りを並べて高低を測ることができることを体験させる。</p>	<p>勾配を知る様子</p>  <p>昔の測量</p> 
る	14	<p>・城堀川によって形成された沼田の町、新田の増加、その後の城堀川の様子について調べる。</p>	<p>・沼田城下の発展、新田の増加等、人々の願いにつながったことを考えさせ、その後の城堀川についてまとめさせる。</p>	<p>噴水公園と城堀川説明板</p> 
ま	15	<p>・改めて、地域の歴史に目を向け、先人の努力によって発展してきた地域について話し合う。</p>	<p>・人々の生活の向上や地域の発展について考えさせる。</p> <p>・まとめたことをどのように発信していきたいかについても、話し合わせる。</p> <p>伝える手立ては・・・</p> <p>伝えたい内容は・・・</p> <p>伝える人は・・・</p>	<p>城堀川全景図</p> 
め				
る				

6 学習経過

(1) 体験・見学

①城堀川上流部 川場中学校付近



図1 谷を渡る水道橋



図2 川場村を流れる用水

〈児童の作文、まとめ文章〉

- ・遠足の帰りに行った時はよく分かりませんでした。城堀川の勉強をして遠くから水を引いたことが分かりました。
- ・水道橋を渡った時は怖かったです。昔は木でできていたそうで、木樋というそうです。
- ・水の流れはきれいで勢いよく流れていました。城堀川より細いと思いました。

川場村の城堀川上流部の見学はこの単元学習に入る前、玉原湿原遠足の帰りに実施した。学習前であったため、何のための見学だか理解していない児童が多かった。その後の授業で、城堀川が沼田の市街地に来るまでに六カ所の谷を越えるために木樋を使用していることを学習した。その際、この見学と写真が学習理解に役立った。この地点の約1km上流部に水源があり、そこから約15kmに渡って水を引いた苦勞、その後の管理の大変さなどに児童は気付くことができた。

②城堀川（噴水公園から沼田公園までの見学）



図3 見学の様子



図4 天桂寺 真田氏時代の石積み



図5 用水分岐点を 橋へ 木樋へ

〈児童の作文、まとめの文章〉

・自分たちの近所にあるのにこの川が人によって造られたものだと知りませんでした。コンクリートの所や土、木の所がありました。川場村や白沢村から流れてきているんだな、と思い昔の人はすごいと思いました。機械のないころどうやって造ったのかなと思いました。

・昔はこの水を飲んでいたらと勉強しました。ゴミがある所もありましたが、見た目ではきれいに思えました。魚も泳いでいました。今も飲めるのかな、と思いながら歩いていました。お寺の所にあった石積みは公園で見た沼田城の石垣と似ていました。

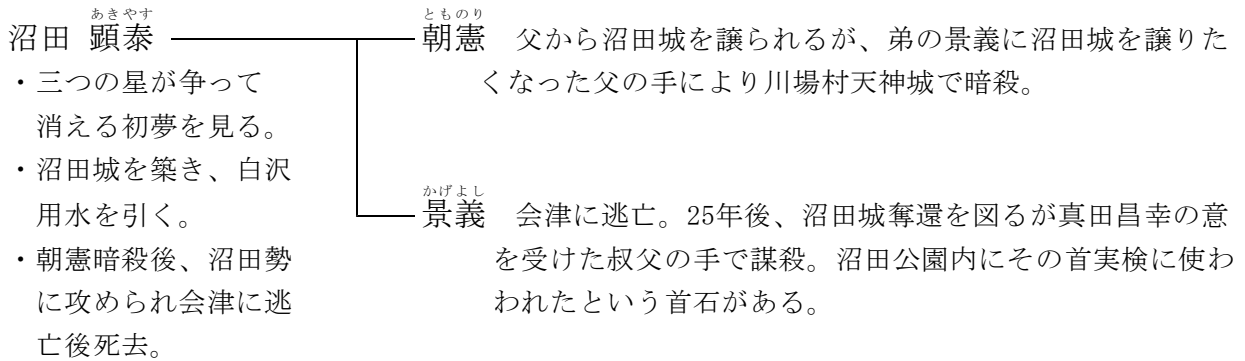
・学校から沼田公園まで歩いて行って帰ってきました。昔の地図を見ると用水は、沼田城の方と町の方へ分かれて流れていますが、今は地下になっていて分からない所もありました。公園の天狗滝が木で見えなかったのが残念でした。

導入で使用した「きりえ沼田カルタ」の『沼田の命支えた城堀川』、計画2～5時間で学習した沼田市街地をめぐる地勢、水のなかった台地に人が住めるようになった理由、川場村での見学などを再確認してから見学を行った。城堀川については当時の資料が乏しく、また流れは同じでも近代的な整備がされているため、当時の面影が残るのは天桂寺（材木町）の石積みのみである。その石積みも寺の要望で残されていると伺った。それでも見学の途中で説明板、城堀川を造らせた真田河内守信吉の墓、六蓮銭の紋、沼田公園内の石垣、「きりえ沼田カルタ」の『平八郎は悲運の武将』に関わる平八石（首石）などに気付き、見学することによって児童は沼田の歴史や真田氏について興味をもったようである。その後、『まんが沼田の歴史』を活用し、沼田と真田氏の関係等について学習した。

③資料「単元に登場する人たち」 ～『まんが沼田の歴史』より～

○ 沼田一族の内紛

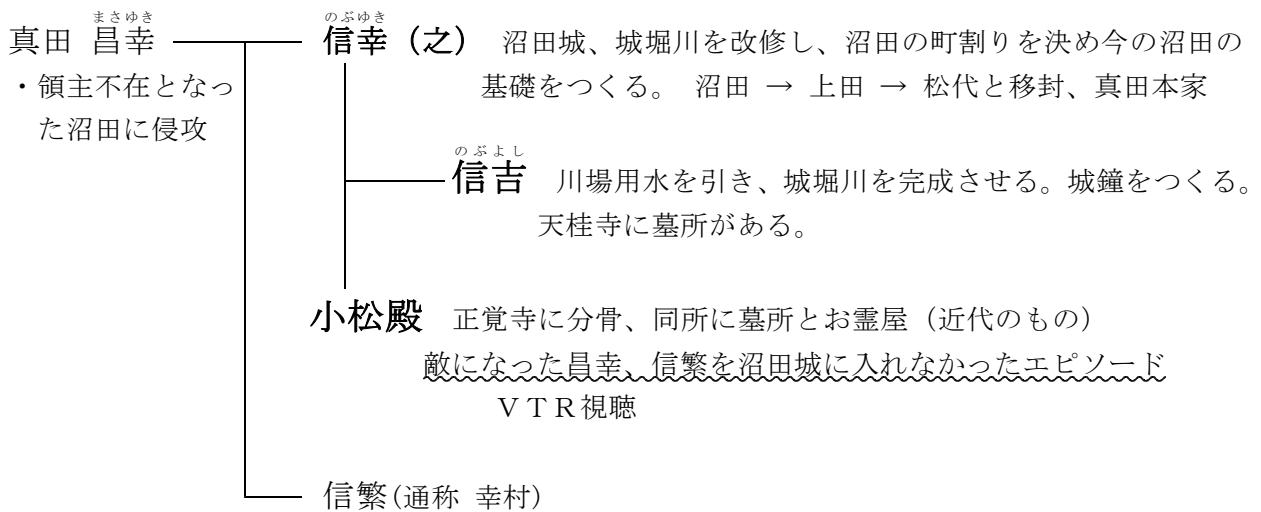
・「三つの星が争って消えた話 と 沼田公園にある首石」について



「こうして三つの星(顕泰 朝憲 景義)は消え、14代続いた沼田氏は滅びました」

「景義が会津に逃げている間、沼田に領主様はいなくなりました。それをおとなり、長野県の真田町から、じっと見ていた武将がおりました。それが……」

○ 真田氏と沼田



4年生にとっては難しい資料であるが、人間関係を整理すること、『まんが沼田の歴史』を活用することにより学習は容易になったと思う。特に、小松殿(稲姫=小松姫)はゆるキャラのおかげで皆知っており、真田信吉や沼田景義については遺構を見学調査済みである。また、クラスの児童の読書、ゲームの中では真田はヒーローであり、おぼろげながら真田氏と沼田の関係を知っている児童もいて興味をもって学習できた。なお、小松殿の有名なエピソードについては、『NHK新大型時代劇真田太平記～昭和60年放映～』のVTRを使用した。

〈児童の作文、まとめの文章〉

・沼田一族は仲が良くなかったけれど、真田の一族は仲がよかったです。今度やる「真田丸」を見てみたいと思いました。

・VTRをみて、小松姫とはこういう人だったのかと思った。真田幸村は本で読んで知っていたけれど、小松姫が「ご入城は あい ないませぬ!」と言って、幸村たちを沼田城に入れなくて鉄砲を向けたのがすごかった。

・沼田にも戦国時代があったんだな、と思いました。6年生になって早く歴史の勉強をしたいと思いました。

7 本時の学習

(1) ねらい 昔の工事の様子を知るとともに、地形や条件に合わせた用水の工事には、どんな工夫や努力、そして苦心があったのかが分かる。

(2) 準備 文献資料：『城堀川案内』 『沼田城下絵図』 各『町村誌』の資料
懐中電灯 竿 台 ワークシート 掲示用用水の地図 学習の振り返り図

(3) 展開

過程	時間	学習活動	学習活動への支援等
つかむ	3分	○今までの学習を振り返る。 ・城堀川について、資料を調べて分かったことを確認し、本時の学習について知る。	○前時までに分かったことを確認させる。 ○本時の学習について知らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">用水工事はどのように行われたか、そこにはどんな工夫や苦勞があったのだろうか</div>
考	12分	○用水工事に使われた道具と工事の様子について知る。 ・提灯と竿は何のために？	○昔の工事の道具を掲示する。 もっこ さとみ じょれん くわ かけや たわら ○掲示資料と教科書で工事の様子について調べさせ、道具がどのように使われたか確認させる。 ○現代は機械化されたことで簡単になったこと確認する。 ○提灯と竿を提示し何のために使われたか考えさせる。
	20分	○長さ1.5kmの緩やかな勾配をどのように測ったのだろうか？ ・距離を短縮してみると、用水の勾配は約1.4‰で1cmであることを知る。 ○「資料を調べよう」 ・資料で測量のやり方を読む「実際にここでやってみよう」 ○資料から読み取った方法を屋内でやってみる。 ○仕事を体験して考えたことを話し合う。	○資料 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;">緩やかな勾配(長さ144mで高さ1m) ～『真田氏と上州』より～</div> ○勾配が約1.4‰で1cmの紙テープを提示し、勾配の様子を視覚的に捉えさせる。 ○資料 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;">竿に提灯を付け、その灯りを対岸から眺め高低を早馬で知らせ調整した ～郡内の各『町村誌』より～</div> ○役割分担し、用水の勾配を量る方法を実際に体験してみる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">対岸から指示を出す人 早馬で駆ける人 用水を掘る人 竿を持つ人</div> ・屋内と実際の感覚とでは違いがあるので、掲示用の絵で補うようにする。
え			

る

10分

ま

と

め

る



図6 体育館での授業
～予想される児童の反応～

- ・よくこんな方法考えたな
 - ・風で灯が消えてしまうよ
 - ・行ったり来たりが大変だね
 - ・たくさんの竿や提灯が必要だね
 - ・昼間は仕事しないのかな
 - ・大変な工事だったね
- ☆沼田の台地に水が来たよ。沼田台地に多くの人が住めるようになったね
- ☆人々の願いがかなったよ
- ★こんな大変な仕事をしようとしたのはなぜなのだろう
- △よく分からない

- 本時のまとめをする。
- 次の学習について確認する。



図7 提灯がわりの電球

- ・児童のつぶやきや反応を見取ってメモしておく。
- 体験をとおして、自分が分かったこと、考えたことを班で話し合わせ、意見を比較したり深めたりさせる。
- ・出された意見を読み合い、自分で分かったことや思ったことをワークシートにまとめさせる。
- ・☆の反応の児童には単元の学習を振り返らせ沼田についてさらに知りたいことを考えさせる。
 - ・★の反応の児童には今までの学習を振り返らせ、用水ができる前の沼田台地の様子はどうだったのかを考えさせる。
 - ・△の反応の児童には、吹き出しに書かせる(役割分担した人物の言葉として)
- 数名の児童に発表させる。
- 沼田の街の発展と城堀川のその後について学習することを知らせる。



図8 遠くから傾斜を知る



図8 用水工事の疑似体験

～ 文献資料 ～ 竿に提灯を付け、その灯りを対岸から眺め高低を早馬で知らせ調整した

8 実践のまとめ

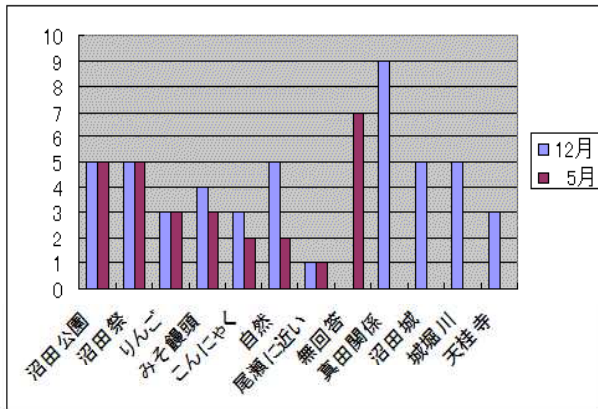


図9 よさ気付き 沼田の(複数回答)

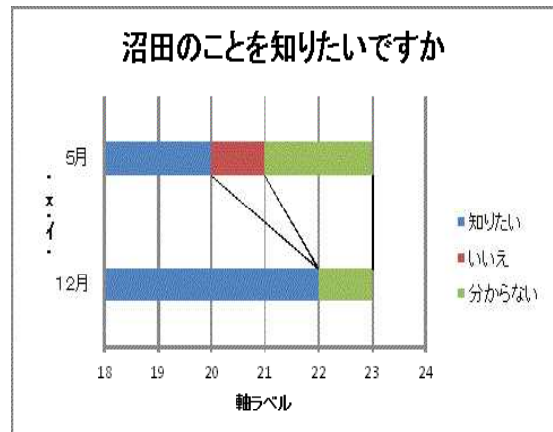


図10 かかわり

もともと、知りたいと思っている児童は多かったが、実践の結果、沼田のよさとして5月にはなかった真田氏関係(人物)や真田氏がかかわった沼田城、城堀川、天桂寺などが挙げられている。そして、それらを調べようとする姿も見られた。中には名胡桃城や上田市に出かけ城や博物館まで見てきた児童もいた。図書室で沼田のことを知ろうとする児童も見られ、沼田の歴史へ関心が高まった。

〈児童の文章から〉

- ・沼田城について調べたい
- ・真田氏について調べたい
- ・もっと小松姫のことを知りたい
- ・沼田の歴史について調べたい
- ・城堀川をどんどん遡って水源を調べてみたい。
- ・上田に行ってみたい
- ・沼田の名物を知りたい
- ・もっと沼田のことを調べてみたい

(1) 成果

○用水について教科書では、長野県の大河原用水と坂本養川が取り上げられているが、沼田の台地に住む児童にとっては城堀川がより身近である。そこで、城堀川の見学、昔の工事の疑似体験を取り入れた結果、児童の学習意欲の高まりを感じることができた。

○城堀川の学習と関連させ、沼田一族、さらに今の沼田の町割りを整備した真田氏にふれたことは沼田の歴史を知ることになり、児童の沼田にかかわっていこうとする姿につながった。それが児童の次の文章に集約されていると思う。「この川が沼田の人達にとってとても大切なものだとは思いませんでした。小松姫の夫の真田信之が沼田の街をつくりました。その子どもの信吉が城堀川をつくりました。信吉のお墓が見学のときにありました。小松姫のお墓もあるそうなので今度見てみようと思います。沼田にもこんなにいいものがあることが分かりました。沼田のことをもっと知りたいです。」

(2) 課題

○4年生の児童に「沼田のよさとは何か」と聞いても漠然としていて答えられないのが実態である。そこで、身の回りにある地域について学習する機会を意図的に、計画的に与える必要がある。また、これらの学習を計画することにおいては、昔の逸話の児童への伝え方を含め教員の教材研究が大切になってくる。どこにどのような文化財や歴史的な物があり、それに先人がどうかかわってきたかを把握し、児童に発見、驚き、愛着をもたせられるようになれば、沼田のよさを知ることになる。

○道徳教材として「沼田公園と久米民之助～わたしちたの沼田市～」 「城堀川をよみがえらせる(自作)」をこの学習と関連させて授業で扱ったことは、今の生活が先人の苦労や努力によるものであり、自分たちと郷土のつながりを考えていくうえで効果的である。他の教科や学校行事などとの関連を意識させて取り組むことも必要である。

○この実践によって知ったことが刺激になり、次に調べてみたいことがたくさん出ているが、日常の授業では時間的制約もあり扱えない。学びの発信なども含め、今後の課題であるが、他教科(社会科、総合的な学習の時間)の中で取り上げていきたいと考えている。

実践事例3（沼田市立沼田南中学校2年）

1 単元名 「沼田公園」を調べよう。

2 本研究における実践の位置付け

沼田公園は、生徒にとっての日常であり、生まれた時からこれまで慣れ親しんだ公園である。そこに歴史があり、先人の努力があったことを感じたり、思いをはせたりすることなどあまりないであろう。しかし、その誕生には確かな歴史があり、人々の熱い思いがある。そういった人々の思いについてふれることは、過去の営みを知り、郷土をつくりあげてきた人々への尊敬の念や感謝の気持ちが生まれてくるものと考え。また、これから生きていく生徒にとって貴重な財産となるものと考え。

この単元を進めるうえで、まず「気付く」場面として、道徳の授業を設定する。調べて歴史を知るだけでなく、それにかかわった人々の思いや願いを知ることは郷土について学ぶうえで重要である。この道徳では、沼田の郷土資料である「久米民之助の夢～市民の憩い「沼田公園」誕生秘話～」を扱う。日常的であった「沼田公園」を価値ある遺産と捉え、生徒は郷土の歴史や発展を認識し、改めて多くの人々に支えられて今の自分が存在していることを知ることをねらいとして授業を進める。

続いて「かかわる」場面として、総合的な学習の時間を設定する。本校では、「沼田市に生きる」というテーマのもと、沼田市の現在を知り、理解を深め、未来を語るという視点で追及活動を行っている。この活動の中で、沼田公園の歴史を調べる。そして、その関係から「沼田城」についても調べ、沼田の発展に尽くした真田一族について取り上げ、さらなる調べ学習を充実させる。この「沼田城」にかかわった沼田の偉人を取り上げることで、沼田の歴史に興味や関心をもち、沼田の歴史に積極的にかけられる生徒を育成していきたいと考える。

単元学習のまとめでは、沼田公園を柱とした新聞を作成し、「発信する」場面を設定する。方法として、同じ学年に向けての発表、1年生に向けての発表、校内に向けての掲示、図書室への新聞の設置を行う。この活動をとおして、生徒がふるさとに主体的にかかわり、もっと沼田を知りたいという意欲を高めたいと考える。

3 本研究に関する生徒の実態（男子12名、女子16名、合計28名）

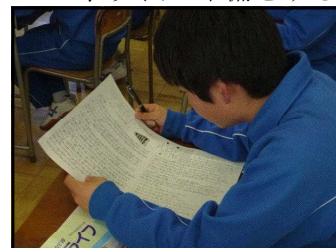
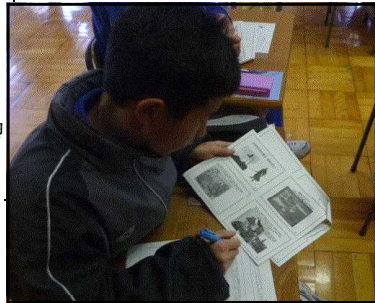
本研究を進めるにあたり、本校の生徒に、「沼田市に住んでいて誇りを感じるか」という質問をしたところ、「感じる」が5割、「感じない」が2割、約3割の生徒が「わからない」と回答していた。「誇りを感じる」と回答していた生徒の理由として「沼田祭りなどの行事が楽しいから」「自然がいっぱいあるから」「歴史を感じるものが意外と多いから」などが挙げられていた。反対に、「感じない」生徒の意見としては、「有名なものがない」「色々なランキングで下位におり、知名度が低いから」などを挙げていた。また、「どちらでもない」と回答している生徒の理由で一番多いのが、「沼田のことをあまり知らないから」というものであった。さらに、「沼田のよさ」について多くの生徒は説明することに自信がないと答えていた。よさについて説明できると答えている生徒は、「多くの文化財があり、有名な詩人がいる」「桜がきれい」「味噌まんじゅう」「自然が豊か」「特産物が多い」と回答していた。このアンケートの結果より、多くの歴史ある遺産が、生徒にとって幼い頃から慣れ親しんだ場所であることが分かるが、価値あるものとは知らずに過ごしてきた結果、生徒にとっては魅力ある場所とは言えないという認識になっているのであろう。

4 目標

沼田公園の歴史を調べる活動を通して、公園の発展に尽くした偉人の業績やそれにかかわった真田一族について知り、沼田の発展について説明し、発信できるようにする。

5 実践計画（全8時間予定 指導案はその1時間目）

時期	過程	時間	教科	単元（資料）名	ねらい	地域素材
5月				アンケートの実施		
10月	気 付 く	1	道徳	「久米民之助の夢 ～市民の憩い「沼田公園」 誕生秘話～」4-(8) 指導案掲載	○沼田の城跡の保存に努めた 久米民之助の思いについて話 し合う活動を通して、故郷の 偉人に対する尊敬と感謝を深 め、故郷の伝統や文化を継承 していこうとする態度を育て る。	久米民之助 沼田城 沼田公園
11月	か か わ る	1	総合	「沼田城と真田一族」 【身に付けたい能力・資質】 ・学習への主体的な態度学習	○「沼田市に生きる」という テーマのもと、沼田市の現在 を知り、理解を深め、未来を 語るという視点で追及活動を 行う。	真田一族 沼田城 沼田カルタ 沼田公園
12月		1	総合	講演 沼田市教育委員会 社会教育課 課長 高山 正先生 「沼田の発展と真田一族」 【身に付けたい能力・資質】 ・学習への主体的な態度学習		
		2	総合	調べ学習 沼田の発展と真田一族 【身に付けたい能力・資質】 ・学習への主体的な態度		
12月	発 信 す る	3	総合	お礼状書き レポート作り（壁新聞） 発表練習	○調査したことを新聞形式で まとめ、発表の準備をする。	
1月			総合	発表とまとめ ① アンケートの実施 2年生への発表	○新聞形式にしたものをガイ ドとなり、発表する。	



その他、朝行事の時間に1年生へ発表を行った。（2月）

6 学習経過

(1) 「気付く」過程

気付く過程では、道徳の授業において、生徒に身近な「沼田公園」を題材にした教材を扱った。

この道徳の授業では、「沼田の城跡の保存に努めた久米民之助の思いについて話し合う活動を通して、故郷の偉人に対する尊敬と感謝を深め、故郷の伝統や文化を継承していこうとする態度を育てる」ことをねらいとして行った。

授業では、「久米民

之助の夢～市民の憩い「沼田公園」誕生秘話～」の郷土にかかわる読み物資料を活用し、久米民之助の故郷に寄せ思いを読み取る活動を中心に、

そこから、生徒自身のこれまでのかかりとこれからのかかりについて考えさせた。久米民之助の思いにふれたことで、「沼田市に誇りを感じない」と答えていた生徒（図1）からも、「沼田はやっぱすごく良い町、これからは沼田をもっと大切にしたい」（図2）という感想を見ることができた。沼田に関する読み物資料を教材として扱ったことで、生徒にとって日常的であった「沼田公園」を価値ある遺産と捉えさせることができた。また、沼田の良さについても考える時間とすることができた。

(2) 「かかわる」過程

① 「沼田城と真田一族」

かかわる過程では、道徳で扱った沼田公園を手がかりに、公園の歴史に目を向けた調べ学習を行った。中心となるテーマは、「沼田城と真田一族」で、「きりえ沼田カルタ」なども利用した。生徒の多くは、真田と沼田城がかかわりがあることを知らなく、この授業を通して、沼田城の歴史だけでなく、真田のことについての理解も深めることができた。（図3）

また、この授業では、「きりえ沼田カルタ」を利用して、真田と縁のある札などを取り上げて、興味付けを行った。例えば、「さ」の札は、『真田氏の 栄枯名残 城の鐘』という札で、まさに真田と沼田の関係を取り上げた札である。（図4）この他にも「し」・「ぬ」・「ね」・「へ」・「も」なども真田と縁のある札である。この授業で驚いたことは、「きりえ沼田カルタ」について、多くの生徒が答えられなかったことである。郷土の教育を行ううえでも、この郷土カルタをもっと活用することが大事であると感じた。

3, あなたは、沼田市に住んでいてほこりを感じますか？

1, 感じる 2, どちらでもない 3, 感じない

4, 3の理由を教えてください。

現代には特に眩れてすかいはの事かはないから。
沼田に来てつまらなくて平和な毎日だから。
色んなイベントで観光客が来ている下の方にいるから。
地産が豊かから。

図1 第1回アンケート（5月）

3, この授業の中で感じたこと、考えたことを自由に書いて下さい。

今まで沼田には眩れてすかいはの事かはないと思っ
りい昔の時代に比べこんな世にも沼田に真実で思
いる人かいたなんて沼田は、やはり、たぐい野を人た
見ました。なのでこからは沼田をもっと大切にしたい。

図2 道徳の授業後の感想（10月）

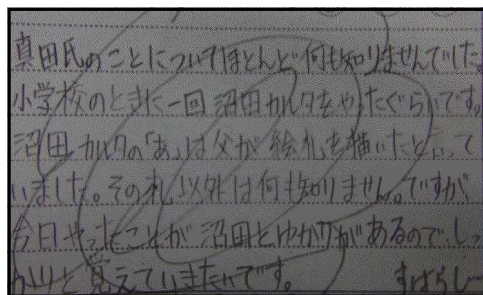


図3 生徒感想

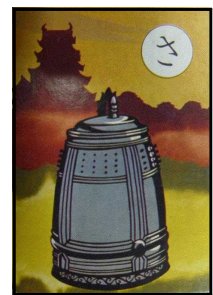


図4 沼田カルタ

沼田カルタ読み札例

「い」…石垣に 歴史偲ぶ 沼田城	「し」…十一面観音 まつる 三光院
「ぬ」…沼田のいのち 町を支えた 城堀川	「ね」…年輪に 歴史刻む 御殿桜
「へ」…平八郎は 悲運の武将	「も」…武士の 運命悲しい 海野塚

②「沼田の発展と真田一族」

「沼田の発展と真田一族」というテーマで講師を招いて、講演を行っていただいた。(図5)

この講演では、沼田の町の戦国時代における役割や、真田一族による沼田の町の宿割や水の確保、お寺の役割などについて教えていただいた。また、社会科の授業で学んだ、キリシタンと沼田のお殿様がかかわりをもっていたということなども教わり、生徒はとて興味をもって聴くことができた。この講演を通して、今の沼田の町の発展に真田一族が深くかかっていることについて知り、沼田市の歴史についてさらに深めることができた。



図5 講演の様子

生徒の中には、「秀吉の天下統一に少しは沼田市が貢献できたのかなと思い、何だか嬉しく感じた」という感想をもったり、「真田の勉強をしてもっと知りたいと思いました」などの感想を書いたりする姿も見られた。また、多くの生徒の感想には、機会があれば真田の城下町の名残や、関係している寺やお墓などに行ってみたいと書かれていた。この講演をとおして、興味が高まっただけでなく、生徒が住む町を改めて見直す機会となったようである。

③沼田市と真田の関係についての調べ学習

調べ学習では、3時間程度の時間をかけて久米民之助と真田に関する資料集めを行い、それをもとに新聞作りを行った。(図6)

生徒の生活日記より、

- 「武者隠れがあった場所の近くを車で通ったときに、親に武者隠れというものがあり、どんなものだったということを教えることができた」
- 「真田丸を見ようと思った。また、見たら内容がわかりやすかった」
- 「真田丸の番組を見てみたいと思いました。家でも、総合の時間に真田について調べているんだよという会話をするようになりました」という感想を書いている生徒がいた。調べたことで、沼田の歴史について興味をもつことができたようである。

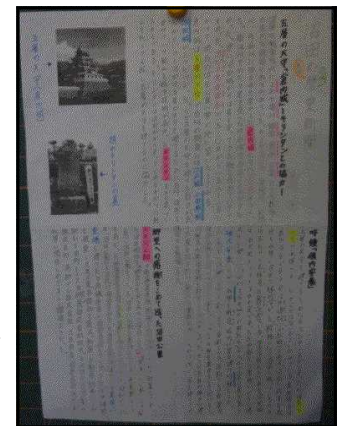


図6 沼田の歴史新聞

(3)「発信する」過程

発信する過程では、「ガイドになり、沼田のことについて調べたことを発表する」という目標を立てて発表を行った。

2年生への発表(図7)、1年生への発表(図8)を通して、

- 「2年生は真田氏のことをなんとなく知っていると思い、新聞に書いたまま順番に読んだが、1年生は真田氏と言われてもピンとこない人が多いと思ったので、まずは真田氏のことから説明するようにした。真田氏→沼田城→真田氏の町の工夫→久米民之助というように、1年生もわかるように説明した。また、新聞には書いてないことでも、質問されたらすぐに答えられるように、資料



図7 2年生への発表

を増やしておいたり、1つのまとまりの話の中でも、吹き出しに書いてあることを読んでみたりした」という感想を書いている生徒がいた。多くの生徒が、発信という過程を通して、さらに理解を深めたり、より深く調べて資料を充実させるなどのかかわりをもてたようである。また、発信を通して、「よりみんなが理解して、興味をもってほしいなと思った」というような感想も見られかかわりをもち発信したことは、自分の住んでいる沼田市に誇りを感じるだけでなく、他の人にも知って欲しいという気持ちも高めることができたようである。



図8 一年生への発

また、校内に向けての新聞の掲示や図書室への新聞の設置を通して、次のような感想を他学年の生徒から聞くことができた。

- 「とてもわかりやすく読んでいて楽しかったです。自分も来年の総合で調べてみたいと思いました」
- 「沼田城や町について知らないことがまだまだたくさんあるので、びっくりしました。せっかく近くに沼田城跡が残っているのに、ぜんぜん知らないことばかりなので、沼田城についても、私の町も調べ、次は私が説明できるようになりたいなと思いました」

7 本時の学習

(1) ねらい

沼田の城跡の保存に努めた久米民之助の思いについて話し合う活動を通して、故郷の偉人に対する尊敬と感謝を深め、故郷の伝統や文化を継承していこうとする態度を育てる。

(2) 展開

過程	学 習 活 動 ◎中心発問 ○発問 (補助発問)	時 間	予想される生徒の心の動き ★見取る視点	指導上の留意点
導 入	<p>1 沼田に関するクイズを行う。 問1 沼田市の人口 問2 沼田市の花、木</p> <p>2 アンケートの結果を知る。 問1 久米民之助を知っているか。 問2 久米民之助について知っていることを書く。</p>	⑤		<ul style="list-style-type: none"> ・沼田市のことについて興味をもてるように、クイズ形式でリズム良く答えさせる。 ・アンケートの結果を示し、本日は、「郷土」について学ぶことを伝える。
展 開	<p>3 資料「久米民之助の夢～市民の憩い「沼田公園」誕生秘話～」を読んで話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">○この資料を読んで、どのようなことが心に残りましたか。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">○「思い出のある城跡がこんなことになっていたのか」という言葉から、民之助のどのような気持ちが読み取れるでしょうか。</div>	⑬	<ul style="list-style-type: none"> ・久米民之助が努力してくれたおかげで今の沼田公園があること。 ・久米民之助の最後の仕事が沼田公園づくりであったこと。 ・沼田公園を「関東一の公園」にしようという壮大な計画があったこと。 ・沼田公園以外の名前があったこと。 ・人々が誇りにしてきた沼田の城跡がなくなってしまうのはさびしい。 ・自分がなんとかしなければならぬ。 ・思い出深い場所がなくなってしまうのは嫌だ。 ・残念だ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・沼田公園の写真を紹介し、資料への関心を高める。 ・資料を読んで印象に残ったことを自由に発表させる。 ・民之助にとって沼田の城跡が幼い頃慣れ親しんだ場所であることに着目させ、民之助の故郷に寄せる強い思いを捉えさせる。

	<p>◎「一本の木、一つの石にわたって、自分が納得するまで指示して整えるなど、心を込めて公園づくりに打ち込みました。」とあるが、なぜ、民之助は心を込めて公園づくりに取り組んだのだろうか。</p> <p>〈補助発問〉 ○城跡は沼田の人々にとってどんな存在であると民之助は考えていたのだろうか。</p>	<p>⑩</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが楽しめる場所をつくり、お世話になった人々に恩返ししたいから。 ・いい公園をつくってみんな（沼田町）を喜ばせたいから。 ・自分の手で公園を整備することで、沼田の人々が誇りにしてきた城跡を守り故郷の発展に貢献したいから。 <p>★故郷の発展に携わりたいという民之助の心を捉えながら表現している。（シートの記述、発表）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・沼田の城跡が、沼田の人々にとっての誇りであると考えている民之助の思いに気付かせるとともに、その誇りは、私財を投げ打って守るだけの価値あるものであることに共感させる。 ・発表はペアで行い、その後全体で数名に発表させる。
	<p>4 「沼田の誇り」について意見を出し合い、これからの関わりについて考える。</p> <p>○今後も守っていかなければならない沼田の誇りにはどのようなものがあるだろうか。また、そういったものにこれまでどのように関わり、今後どのように関わっていけばいいのだろうか。</p>	<p>⑩</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで沼田の発展に努めてきた人たちの功績や地域で大事にされているもの。 ・祭りや公園など。 ・これまで積極的に参加してきたけど、もっと色々なものに参加していきたい。 ・もっと沼田の良さを調べて、発信していかなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な角度から考えさせる。 ・発表はペアで行い、その後全体で数名に発表させることで、自分の考えを広げさせる。
<p>終末</p>	<p>5 本時の学習を振り返り、感じたことや考えたことを書いたり発表したりする。</p> <p>6 「私たちの道徳」を読み、記入する。</p>	<p>⑩</p> <ul style="list-style-type: none"> ・久米民之助が故郷への熱い思いをもって沼田公園を作ったことがわかった。 ・今ある「沼田の誇り」をこれからも守って行かなければならないと感じた。 ・「沼田の誇り」について考えることができた。 ・「沼田の誇り」についてもっと多くの人に知ってもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・BGMとして「沼田の歌」を聴かせる。 ・「私たちの道徳」P200を読ませ、P201「私のふるさと」に記入させる。

8 実践のまとめ

(1) よさの気付き

「沼田に誇りを感じる（好き）か」という質問に対して、全ての生徒が「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えている。（図9）その理由の多くは、「いろいろ学習してみると、沼田にも良いところがある」、「歴史がある」などと回答していた。今回の学習を通して、知らないが故に誇りを感じることができない、知ったことでいろいろなことがわかり、興味をもちそのことに誇りを感じると思う生徒が多くいたようである。

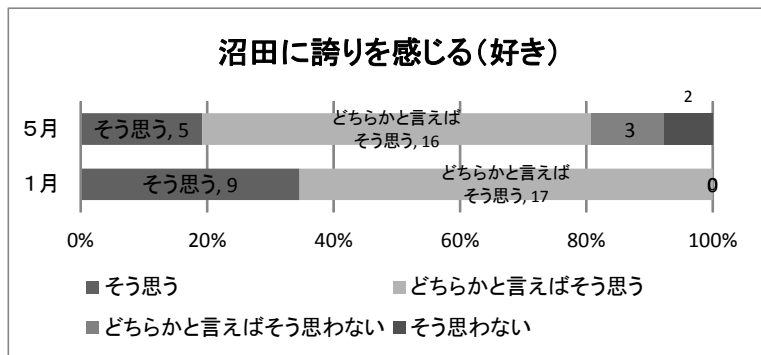


図9 沼田誇りを感じる（好き）

(2) かかわり・発信

5月のアンケートに対して、1月の回答では、多くの生徒が説明できると答えていた。（図10）

特に「説明できる」と答えている生徒の多くが、具体的な内容にふれて説明できると答えていた。また、それに関連して、「沼田を大切にしていこうと思うか」という質問に対して、全員

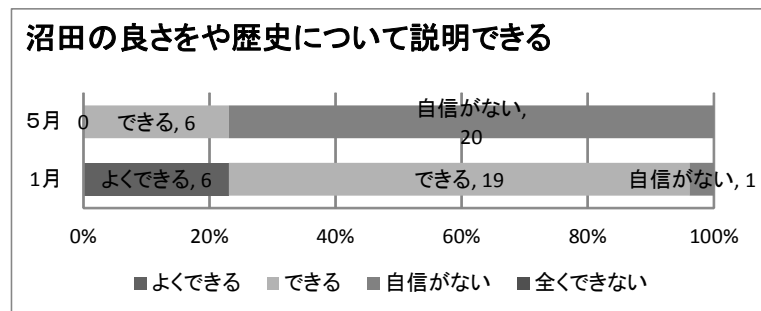


図10 沼田の良さや歴史について説明できる

が、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えていた。さらに、「これからも沼田市について調べていきたいか」という質問に対して24名の生徒が「調べたい」と回答していた。

9 成果と課題

(1) 成果

○道徳で郷土について扱ったことで、多くの生徒が郷土に思いを寄せる人々の思いにふれることができ、「ふるさと」について考える機会となった。

○沼田市の良さに気付かせることで、これからもかかわっていこうと考える生徒を増やすことができた。また、沼田公園という生徒の身近な素材を活用したことで、より親しみやすく、また意外な発見にもふれる機会となり、興味や関心を高めることができた。

○発信をしていく過程を通して、もっと知りたい、色々な人に知ってもらいたいなどの気持ちを高めることができた。また、それを見たり聞いたりした生徒にも興味や関心をもたせるとともに、「自分も調べてみたい」といった学習意欲をもたせることにもつながった。

(2) 課題

○身近な地域素材を教材化するには、資料集めや価値理解などに時間がかかる。

○発表したり、調べたりする活動には時間がかかるため、年間指導計画の中にしっかりと位置付けておき、計画的に学習を進めることが重要であると感じた。

○発信する過程では、「誰に」「何を」という相手意識や目的意識を明確にすることが重要である。今回は校内に向けての発表が中心であったが、家庭や地域などにも発信できると、生徒の学習意欲向上につなげることができるものと思う。

VI 研究のまとめ

1 成果

○地域教材を扱う学習で見学や体験を重視することによって、児童・生徒の関心や意欲は確実に高まった。そして、新しい知識を得ることにより、もっと知りたい、調べてみたいと次の段階へ進むことができた。低学年では、身近な人と交流することで好きな場所が増え、中学年では、図書室で沼田関係の本を借りたり、出かけた所で真田氏関係のものを調べたりするなど、ふるさとに主体的にかかわっていかうとする姿勢が見られた。中学生では、説明や発信する活動を取り入れたことにより、一人一人が調べたことを整理し再構成することができた。また、相手意識をもって自分の言葉で伝えようとする中で、先人の業績や文化財についての理解も深まり、意欲的に活動する中で自分に自信をもてるような姿も見られた。このような沼田のことを知りかかわっていかうとする児童・生徒の姿から、自己有用感を育むことにもつながっていく可能性を感じた。

○先人たちの苦労や地域の方々の活動を知ることは、自分たちのふるさとについての知識が増えることである。地域教材は身近な「ひと・もの・こと」であるため、見学などで具体的なイメージをつかめたり、体験的な学習を取り入れやすかったりする。そこで、児童・生徒の実態を考慮し、学習内容や学習活動をより身近な存在に近付けることができ、学習内容の定着にもつながった。

2 課題

○研究班の構成において、それぞれの学区のつながりが薄く、担当する学年や教科も三者三様であったため、常に異なる立場や視点からの貴重な情報交換ができた。しかし、小学校高学年の実践ができなかったことで、9年間の学びを見通した系統性を考えることが大変難しかった。また、それぞれの学校における取組を沼田市全体で共有できるような仕組みの必要性を感じた。

○地域素材は数多くあるが、それを教材化するためには時間と労力を要する。また、たくさんの情報を与えようとしても、児童・生徒の実態に合わないことがある。地域教材を扱う際は、地域性や発達段階を考慮し、情報過多にならないような配慮や計画性が大切になると考える。

○『沼田大好き！ふるさと学習』の充実は各校の工夫に委ねられているが、学校だけでなく、家庭や地域の教育力を活用していくことが望ましいと思われる。計画的に見学調査やゲストティチャーを活用した授業を行ったり、小学校の低学年では『きりえ沼田かるた』、中・高学年は『まんが沼田の歴史』、中学校では『沼田市史』など、先人がまとめた郷土史の文献等を活用したりしないと、一過性の学習になってしまう恐れがある。NHK大河ドラマ『真田丸』の影響で、沼田への関心が高まっているこの好機に、誰もが利活用できる学習指導案等の作成、または資料のデータベース化なども今後の課題であると思われる。

※参考にした資料と文献

○上毛かるた	平成17年7月当時	群馬文化協会
○きりえ沼田かるた	昭和62年3月	沼田市教育委員会
○『まんが沼田の歴史上・下』	平成2年3月	沼田市
○小学校社会科副読本『わたしたちの沼田市』	平成26年3月	沼田市教育委員会
○『真田氏と上州』	昭和60年3月	みやま文庫
○『はばたく群馬の指導プラン』	平成24年3月	群馬県教育委員会
○『沼田の歴史と文化財』岸 大洞著	昭和55年7月	歴史図書社